

基本課題Ⅳ 就労（働く場における男女平等と女性の経済的自立を確保する）

目標 8 職場における男女平等の推進

（1）雇用の場における男女平等の推進

目標 9 女性の職業能力の開発と就労機会の拡大

（1）職業能力の向上と経済的自立に向けた支援

状況

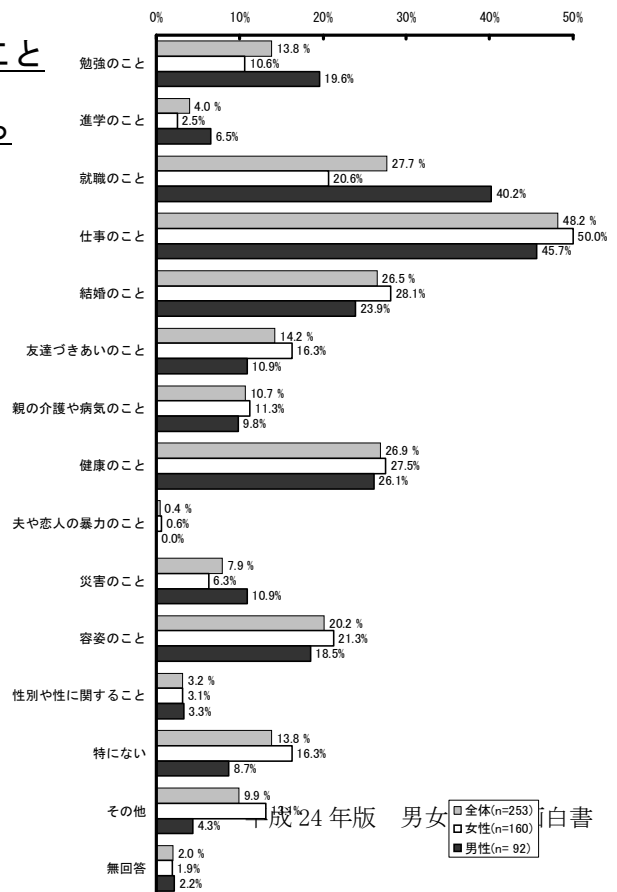
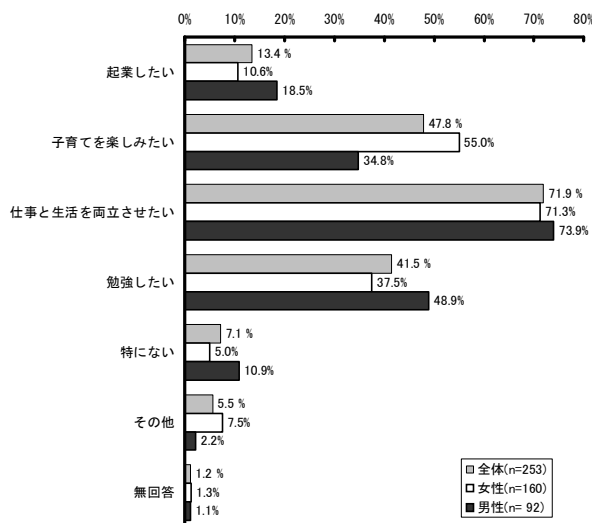
就労の場では、法整備が進んでいく一方で、雇用形態の傾向の違いや給与格差などがあり、能力活用のお機が十分でない傾向が伺えます。

また、女性は、結婚・妊娠・出産・育児・介護等のため退職せざる得ない場合や、希望する働き方で再就職できていない場合があります。20代を対象とした市民意識調査では「これからやってみたいこと」で「仕事と家庭の両立をさせたい」との回答が、「今悩んでいること」で「仕事のこと」との回答が一番多い状況が伺えました。若者にとって「仕事」が意識の中で多くを占めている状況が伺えます。

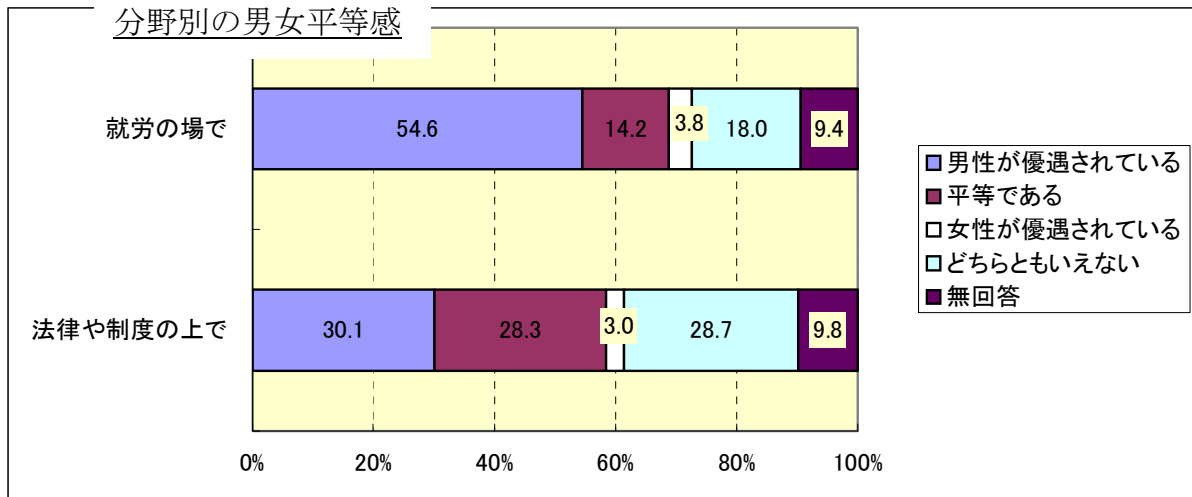
今悩んでいること

（平成24年度市民意識調査）から

これからやってみたいこと



調査対象：柏市在住の20歳代の男女
 標本数：1,800人
 調査方法：郵送による調査（1,000人）
 インターネット調査（800人）



「柏市男女共同参画に関する市民意識調査」平成21年度

女性の働き方の理想と現実

(%)

	現実の働き方									
	仕事を持たない	結婚するまで	子どもができるまで	ずっと仕事を続ける	大きくなったら再び仕事(フルタイム)を持つ	大きくなったら再び仕事(パートタイム)を持つ	仕事をやめた 家族の介護をするときは、	その他	無回答	
全体	8.3	9.4	8.2	16.1	11.7	34.5	3.3	3.4	5.2	
働き方の理想	仕事を持たない方がよい	<u>28.6</u>	14.3	7.1	14.3	14.3	0.0	7.1	0.0	14.3
	結婚するまで	14.0	<u>36.8</u>	12.3	7.0	3.5	15.8	3.5	1.8	5.3
	子どもができるまで	10.3	16.2	<u>32.4</u>	4.4	7.4	13.2	4.4	1.5	10.3
	ずっと仕事を続ける方がよい	7.1	5.4	6.3	<u>44.6</u>	9.4	20.5	0.4	3.1	3.1
	大きくなったら再び仕事(フルタイム)を持つ方がよい	8.6	9.7	7.1	9.7	<u>28.8</u>	27.7	2.6	1.9	3.7
	大きくなったら再び仕事(パートタイム)を持つ方がよい	7.3	7.3	6.3	7.3	3.8	<u>58.7</u>	2.5	2.0	4.6
	家族の介護をするときは、仕事をやめた方がよい	6.5	3.2	6.5	6.5	9.7	12.9	<u>38.7</u>	3.2	12.9
	その他	8.4	4.8	4.8	21.7	10.8	22.9	1.2	20.5	4.8

※下線・網掛けのある部分が、理想どおりに働いている人の割合を示しています。

「柏市男女共同参画に関する市民意識調査」平成21年度

どのような働き方を理想としていても、理想とした働き方を現実にもしている人が一番多い結果となりました。ただし、その割合を見ると全体の4割程度となっています。

特に取り組んだこと

1 啓発資料の配布、相談窓口の情報提供を行いました

◇関係機関や千葉県と連携した講座の実施

労働法令、セクハラ防止、各種講座、相談窓口などの労働者に関する資料の配布を行いました。また、柏工業専門校や千葉県と連携した講座を実施しました。 **商工振興課**

2 農業経営への女性の参画支援を行いました

◇家族経営協定制度などのPR

家族経営協定を締結している農家より、農業経営計画の共同申請があり、配偶者・後継者がそれぞれ認定農業者となりました。平成24年度末までの認定農業者106名のうち6名が女性農業者となっています。

庁内連携

推進状況

「就労の場において、男女が平等になっている」と感じる人の割合

平成24年度 14.2% ⇒ 平成27年度 20%

※平成24年度は当時の直近の市民意識調査結果（H21）の数値です。

家族経営協定の締結家族数

平成24年度 18件 ⇒ 平成27年度 20件

※家族経営協定とは、家族農業経営にたずさわる各世帯員が意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるものです。

職業能力向上のための講座の参加者数

平成23年度 148人 ⇒ 平成24年度 188人 ⇒ 平成27年度 設定せず

※事業仕分けの結果、講座を行う勤労会館事業が廃止となり、目標値は設定していません。

主な取り組み

- ・女性農業者の活動等の紹介、千葉県農業委員の会や農山漁村いきいきフォーラムへの参加（農政課・農業委員会事務局）
- ・就職希望者への支援として講座や就職相談会を実施（商工振興課）

今後の取り組み

- ・労働に関する情報発信や講座実施（庁内連携）
- ・女性農業委員の登用への働きかけ（庁内連携）
- ・柏市農業女性連合会と連携した家族経営協定のPR（庁内連携）

目標 10 男女が職業生活と家庭生活を両立できる環境づくり

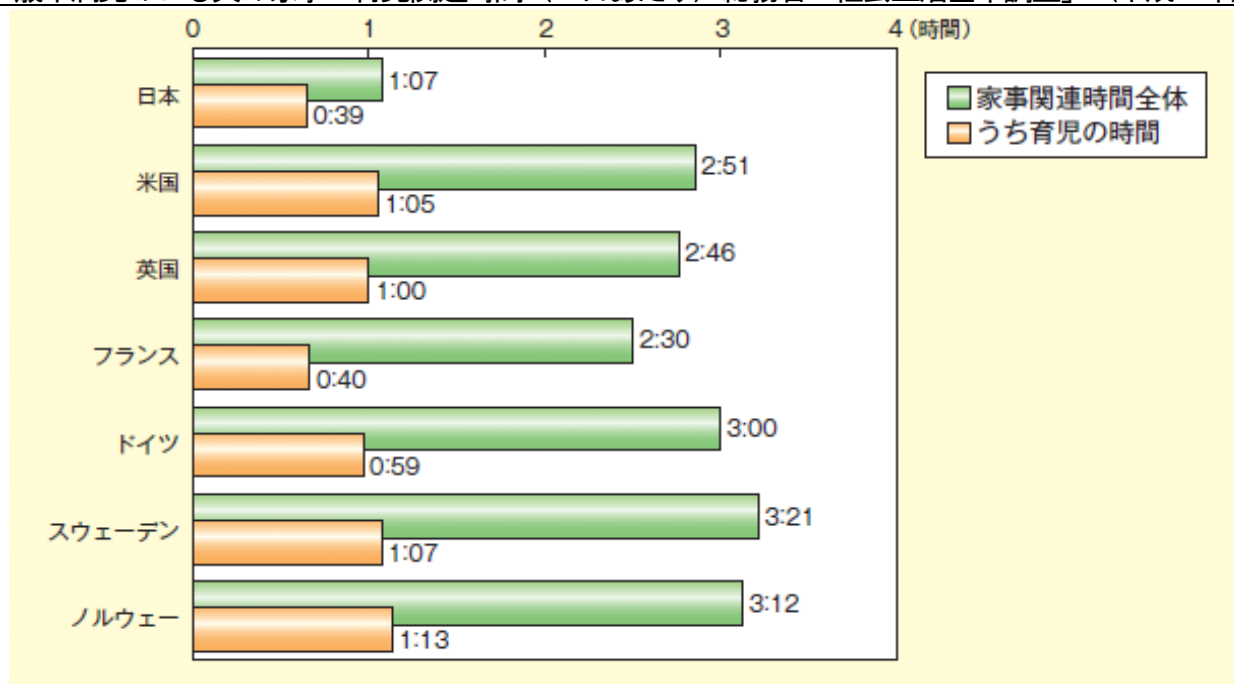
- (1) 家庭生活・地域活動への男女共同参画の推進
- (2) 保育サービスの充実
- (3) 介護が必要な家庭への支援
- (4) 女性が働き続けられるための調査・研究

状況

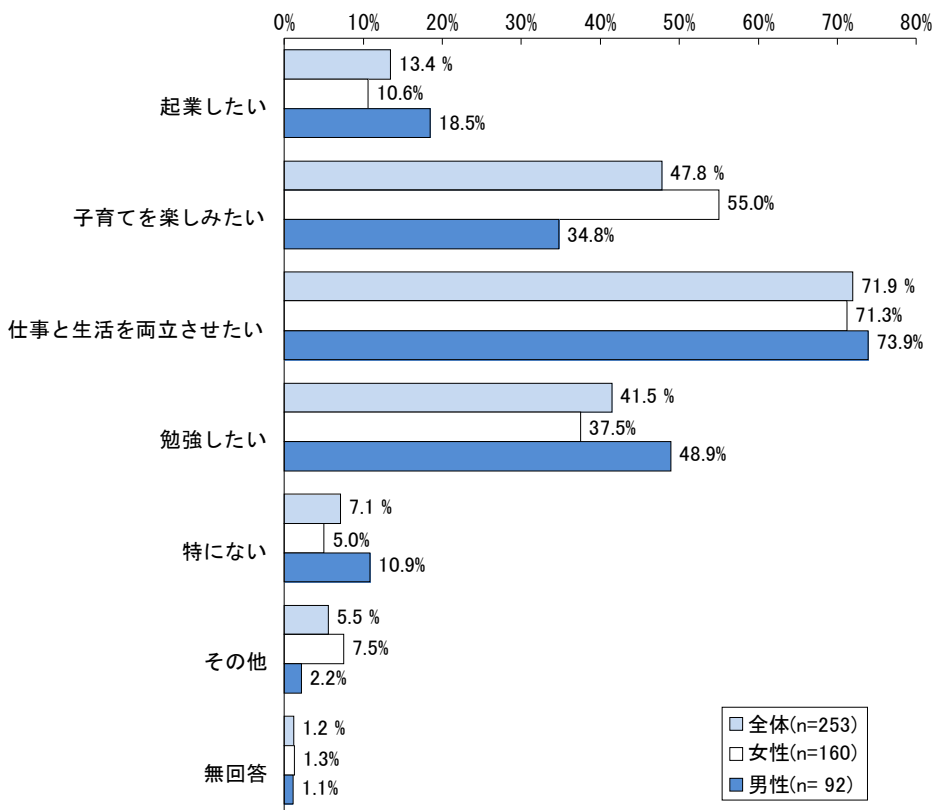
我が国では、6歳未満の子どもを持つ夫の家事・育児関連に費やす時間（1日あたり）は67分と他の先進国と比較して低水準にとどまっています。

20代を対象にした市民意識調査では、男女共に仕事と家庭の両立をやってみたいと思う人が多いことがわかりました。

6歳未満児のいる夫の家事・育児関連時間（1日あたり）総務省「社会生活基本調査」（平成23年）



これからやってみたいこと（平成24年度市民意識調査）



調査対象：柏市在住の20歳代の男女
 標本数：1,800人
 調査方法：郵送による調査（1,000人）
 インターネット調査（800人）

特に取り組んだこと

1 働く男女（ひと）と家庭に優しい企業表彰を行いました

◇働く男女（ひと）と家庭に優しい企業表彰式（平成25年1月26日）

誰もが健康で心豊かな生活ができるよう、仕事と家庭の両立などを積極的に支援している企業の表彰を行いました。



1月26日の男女共同参画シンポジウムでの表彰式

推進状況

育児休業・介護休業をとりやすいと感じる人の割合

育児休業	平成24年度 <u>29.6%</u>	⇒	平成27年度 <u>40%</u>
介護休業	平成24年度 <u>23.4%</u>	⇒	平成27年度 <u>30%</u>

※平成23年度は当時の直近の市民意識調査結果（H21）の数値です。

「ワーク・ライフ・バランス」を知っている人の割合（後期計画新設目標）

平成24年度 <u>20.8%</u>	⇒	平成27年度目標 <u>50%</u>
------------------------	---	------------------------

※平成24年度は直近の内閣府「仕事と生活の調和の実現に影響を与える生活環境に関する意識調査」結果（H23）の数値です。

主な取り組み

- ・パンフレットやHPによる仕事と生活の両立に関する情報発信等による啓発（庁内連携）
- ・保育サービスや介護サービスの提供による支援（庁内連携）

今後の取り組み

- ・講座や情報発信による、企業や市民へのワーク・ライフ・バランスの啓発（庁内連携）